

# 長岡京跡左京二条二坊八町、石田遺跡の調査

所 在 京都府向日市森本町石田 13 番 3 調査期間 2011 (平成 23) 年 9 月 1 日～10 月 28 日予定

調査所管 向日市教育委員会

調査機関 財団法人向日市埋蔵文化財センター (担当 梅本康広)

## 1 はじめに

今回の調査地は、長岡京がつけられた当時の住所であらわすと左京二条二坊八町に想定することができます。都は碁盤の目のように道路を規則的に配置して土地を区画し、宅地がつけられています。

ひとつの宅地は一辺がおよそ 120m もの規模があり、このなかに家屋や塀などが設けられていました。調査地は当該八町宅地の中央部に位置します。この場所で長岡京の時代に人々がどのような生活を送っていたのかを明らかにすることが調査の目的のひとつになります。

また、重複して縄文時代後・晩期の集落跡である石田遺跡があり、今から約 3000 年前の縄文人の暮らしを知る手がかりが得られるのではないかと遺構・遺物の発見に期待が寄せられました。

調査の結果、鎌倉時代の溝 2 条、長岡京期の溝 4 条、縄文時代の河道跡、土器棺等が確認されました。

## 2 発見された遺構

〔鎌倉時代〕 約 4.5m の間隔をあけて東西に走向する二条の溝 (SD01・02) が確認されました。皿形に掘りこまれ、黒灰色粘土の埋め土の中からは土師器や瓦器の破片が出土しました。

〔長岡京期〕 調査区の東半で南北の溝 4 条 (SD03～06) 分が確認されました。黒色粘土で埋められており、宅地の内の暗渠排水路と考えられます。また、調査区の中央付近からは、土師器皿の完形品が地面に伏せた状態で出土しました (SX07)。本来の目的は不明ですが、地鎮などのまつりに使われた可能性も考えられます。

〔縄文時代〕 調査区の北半を東西に流れる河道跡の南岸部を検出しました。水流の影響で削り込まれた大きな凹地は、湿地となり黒色粘土層が厚く堆積しています。この土の中には縄文時代後期や晩期の深鉢などの土器片が大量に含まれており、近くで集落が長く安定的に栄えていたことがわかります。また、岸辺からは深鉢を埋めて亡骸を埋葬した土器棺 (SX11) がみつかりました。

## 3. まとめ

今回の調査成果については、次のとおりにとまとめることができます。

- ① 鎌倉時代では耕作に関わる溝が確認され、平安遷都後の長岡京の跡地が農業用地に変わり、現代に至るまで同じ土地利用が続いたことを示す状況と考えられます。
- ② 長岡京期では八町宅地の中央部に建物などの構築物は存在せず、空地にあたるということがわかりました。宅地内部の構造を復原する上で興味深い成果となりました。
- ③ 縄文時代では、石田遺跡の縄文集落が約 500 年もの間、河道近くで安定的に生活が営まれていたことを明らかにすることができました。京都盆地の縄文時代遺跡の中で集落の様子がわかっている事例は少なく、貴重な調査成果を得ることができました。

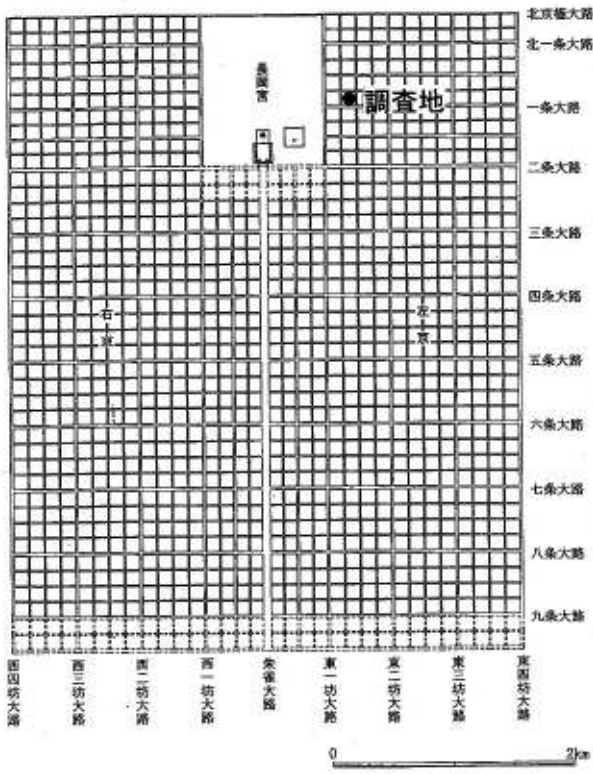


図1 調査地の位置



図2 今回出土した縄文土器の類例（左京第525次）

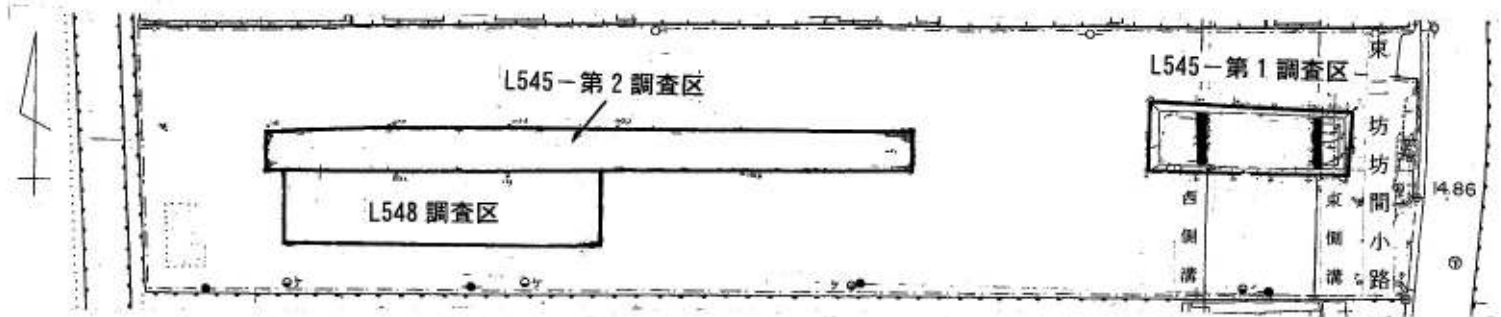


図3 調査区設定図 (1/600)

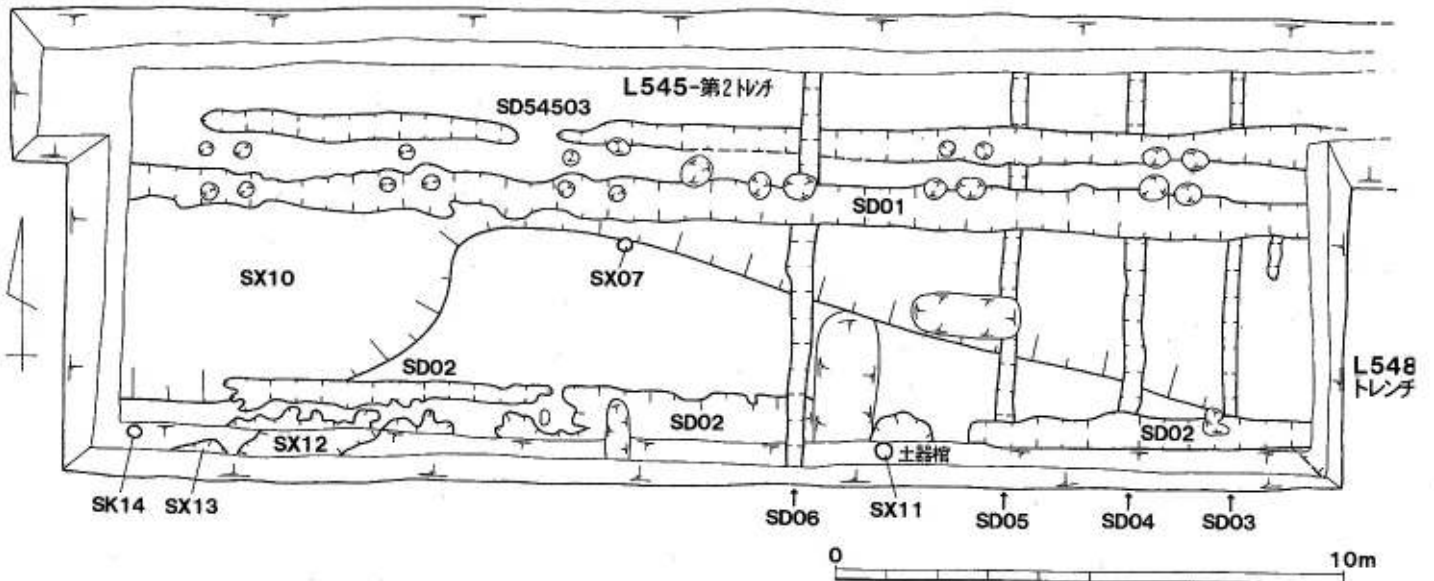


図4 遺構配置図 (1/150)